

自ら事前の学習や家庭で収集した情報を活用し、 ICT 端末を用いて協働的に学ぶ学習

第5学年

わたしたちの生活と工業生産

こんな子どもたちの姿が生まれました！

- 自分の考えを仲間に分かりやすく伝えようと、ICT 端末を用いて、根拠となる資料や動画の必要な情報を選択して提示することができました。
- 社会的事象の見方・考え方を働かせて、資料から読み取ったことを、仲間と比較・関連・総合させながら深い学びにつなげることができました。

学習支援ツールや Web サイトを用いた情報の収集・選択

事前の学習や家庭で収集した情報と本時の資料を関連付けて読み取る。

- ・ 仲間に提示したり、自らの学びを蓄積したりするために、収集した資料等を学習支援ツールに貼り付ける。
- ・ 資料等から読み取ったことを関連付けて考えられるように、学習ノートに図解表現でまとめる。

*本実践では、MetaMoji Classroom を使用した。



仲間と課題追究をする際に必要な情報を ICT 端末で提示する。

- ・ 自分の考えの根拠となる資料等を仲間に提示しながら説明する。
- ・ 読み取った事実が仲間に伝わるように、端末の画面に書き込んだり、ピンチアウトして内容を拡大したりして説明する。



教師の指導のポイント

- 多様な学び方を紹介したり、事前の学習や家庭などで集めた情報を効果的に活用する方法について個別に伝えたりして、児童自ら ICT 端末を用いて情報を活用する場面や自分の考えを学習ノートに記述する場面を判断できるようにする。

仲間と情報を適切に活用し、協働的に学ぶための言語能力の育成

ICT 端末を用いて作成した根拠を基に、仲間を選択・判断したことを説明する。

- ・ 自分の考えを説明する際に、根拠となる資料等を提示し、読み取った事実を伝えるとともに、事実と考えをつなぐ理由まで説明する。
- ・ 仲間の説明で十分に説明されていない点や関連する内容について、「どうしてそう言えるのですか?」「つながることはありますか?」と、ICT 端末等で示すように問い返す。



教師の指導のポイント

- 「結論－根拠－理由」で自分の考えを説明するよう促し、論理的な思考を育てるとともに、仲間との考えの差異を聞き分けることができるようにする。
- 教師がコーディネーター役となって、児童の協働的な学びを深める問いを生んだり、話し合いの前後における児童の変容や単元における個々の学びの深まりを見取って価値付けたりする。